

第34次 第7回  
宮城県社会教育委員の会議  
会議記録

平成29年8月1日(火)

宮城県教育員会

### 第34次（第7回）宮城県社会教育委員の会議 記録

- 日 時 平成29年8月1日（火） 午前10時00分から11時30分
- 場 所 宮城県行政庁舎11階 第2会議室
- 出席委員（12名）

相澤委員	伊勢委員	齊藤委員	坂口委員
佐々木淳吾委員	佐々木とし子委員	澁谷委員	杉山委員
鈴木孝三委員	星委員	星山委員	中路委員
- 欠席委員（3名）

鈴木正博委員	田中委員	千葉委員
--------	------	------
- 事務局 

新妻生涯学習課長	今野社会教育専門監	高橋副参事兼課長補佐
山田生涯学習振興班長	成瀬社会教育推進班長	吉田社会教育支援班長
蛭名同課長補佐	丹野同主幹	菅原同主任主査

（司会者）

・皆様おはようございます。

定刻でございますので、只今から第34次（第7回）宮城県社会教育委員会会議を開会いたします。本日、鈴木委員、田中委員、千葉委員の欠席の御連絡が入っております。また、相澤委員が遅れてくるという連絡が入っておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、情報公開条例第19条によりまして、県の付属機関の会議につきましては、原則公開となっております。今回につきましては、公開により審議を進めさせていただきます。

それでは早速議事に入ります。以降の進行につきましては、議長様お願いいたします。

（澁谷議長）

・それでは、改めまして、10時ですからまだおはようございますですね。おはようございます。暑い夏がやってまいりました。私のあたりではちらほらとは夏祭り、盆踊りの看板が見受けられるようになりました。

都会、都市部ではないので、その実態を見ると昔ながらの青年団の専売特許のような形で、夏祭り・盆踊りとなると青年会、青年団の方々が中心となって、OBが支援するという形で取り組んできたんですが、最近、なかなかそこも上手くいかなかったようで、でも、いろいろ話を聞いてみると、やはり、青年会・団に入っていない方々の盆踊りだけはとにかく続けてやるんだと、いうふうなところでやって、頑張っている地域が多いように思います。そういう季節がやってきたんだと改めて思いました。

今日は、第7回の社会教育委員会会議でございます。

これまでのさまざまな御意見，お話とお考え，思いなどもいただきました。7回目ということで，今日はそれを，それらのものが一つの方向に集約され方向性を固めていくというふうなもの。そして，報告書というものを見据えた話し合いが展開されるのではないかなというふうに思います。

あと，事務局のほうから一つの目玉となります，現地視察，あるいは調査，そういったようなものについても具体的な提案があると思いますので委員の皆様方から忌憚のない建設的な御意見を賜りますようお願い申し上げまして開会の挨拶とさせていただきます。

今日もよろしくお願いいたします。

それでは，本日の会議の議事録署名委員2名を指名させていただきます。第7回の議事録署名委員については星山委員と相澤委員にお願いいたします。

相澤さん遅れるということですがよろしいですか。

(事務局)

・はい。

(澁谷議長)

・わかりました。お願いいたします。次に傍聴人の取り扱いについて御説明を申し上げます。本会議の傍聴につきましては，審議会等の公開に関する事務取扱要項が定められておりますが，本日の傍聴希望者について報告願います。

(事務局)

・本日の傍聴者はおりません。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

なお，審議会等の会議の公開に関する事務取扱要項第8条により公開した会議の資料及び発言者を明記した会議録については，県政情報センターにおいて3年間，県民の方々に供覧に提示することになっております。

前回と同じように会議は90分以内，なかなか厳しいと思いますが，というふうに事務局からきつく申し渡されておりますので，有意義な意見交換をできますよう，御協力を賜りたいと思います。

早速，議事に入ります。審議テーマについてでございます。事務局から御説明をお願いいたします。

(事務局)

・改めまして，おはようございます。

座って説明をさせていただきます。お手元、審議紀要をごらんください。前回の会議では、これまでの皆様の審議内容をもとにしながら、審議テーマ「世代を超えて紡ぎ合う宮城らしいコミュニティづくり」を決定いたしました。その話し合いの中でさまざまな委員の御意見、そして、最後に中路委員さんから御提案いただきました、サブテーマ「震災後の地域活動からの学びをとおして」ということで事務局原案としてですね、サブテーマを今申し上げた「震災後の地域活動からの学びをとおして」ということで提案をいたします。

なお、前回の話し合いの中でですね、審議紀要の3、審議テーマの捉え方の(3)をごらんください。

「震災後の地域活動からの学びとは」と起こしてあります。震災後の地域活動から学んだことはもちろん、震災前、震災前から継続しているもの。震災時、震災時から継続しているもの、途切れてしまったもの。これら震災に絡む全ての活動から学びを指す。震災後の地域活動と書いてありますが、私たちの捉えとしては、今、言ったようなことで広く震災前からの継続したものも捉えるということで、確認をしたいと思います。

続けて、三つの視点について提案をいたします。

前回までの皆様の話し合いの内容を、審議テーマに迫る三つの視点としてまとめてみました。かなり広範囲に渡っていたのですが、三つのキーワード「コト」「ヒト」「モノ」を縦軸に。また、皆様の話し合いのものを横軸に切った形で三つの視点にまとめてあります。審議紀要の4、をごらんください。

以下の3視点で調査、研究、審議を行い、宮城らしいコミュニティづくりのための方策を探る。

視点1。震災前から震災後にかけてのコミュニティの変化を類型化し、コミュニティづくりが成功した要因やそれを阻害する要因を明らかにする。「コト」ですね。

視点2。それぞれの取組におけるキーパーソンについて調査し、コミュニティづくりの中心となる人材の育成。地域からの発掘等についてその有効な方法を探る。「ヒト」。

視点3。コミュニティづくりの拠点となる公民館等施設や核となる社会教育主事制度の現状と課題、改善策を明らかにする。「モノ」。

この3点で調査研究審議を行っていきたいと思います。

それでは、サブテーマ及び三つの視点について御審議をよろしくお願いいたします。

(澁谷議長)

・わかりました。

ただいま、事務局から御説明がございました。

まず、第1点の審議テーマについての中サブテーマというふうなことで、前回、御提案があった、「震災後の地域活動からの学びをとおして」というふうなサブテーマを設定したい。してみたらどうかというふうな提案でございます。

繰り返しになりますが、これが出たときに、多くの委員の皆様方から震災後だけではなく

て震災前からあったもの、そういうようなものもきちんと大事にしなければいけないだろうということで、あえて事務局のほうから審議テーマの捉え方の（3）に「震災前、震災前から継続しているもの」というふうなことも十分に踏まえた上で、まとめていくという御提案でございました。このことについて、御意見を賜りたいと思います。

（齊藤委員）

・よろしいですか。

（澁谷議長）

・どうぞ齊藤委員さん。

（齊藤委員）

・この審議テーマというものがどの程度、外と言いますか、会議の外に見える形になるのかどうかということ関わると思うんですが、今のサブテーマの部分ですね、3番の審議テーマの捉え方であったり、4番目の三つの視点っていうところを拝見しますと、もうちょっと素直に「震災前後の地域活動」とか「震災前後して地域活動」としたほうが捉え方であったり、三つの視点に書いてあることの意味は、通じやすいのかなと思うんですね。

「震災後の地域活動」と書いてあるので、やっぱり震災後ということを読み手は受け取りますので、あえて捉え方で3番目の捉え方であったり、4番目の三つの視点についても震災前、震災後と両方の言葉が入っていますから、この「震災後」っていう言葉で前のことも含めようという意図があるのであれば、「震災に前後した地域活動」だったり「震災前後の地域活動」であったりそういうふうにしたほうが読み手としてはわかりやすいのかなというふうに思います。

ただ、捉え方三つの視点の中身の部分、ここは全く異論はないところでありますけども。

（澁谷議長）

・ありがとうございました。

確かに「震災後」という言葉が入ってきますので、中身を読み込んでいけば、そのとおりなんだろうが読み手の立場に取ったときにどうなのかというふうな気はしますね。

いかがでしょうかその辺につきましては。

（星山委員）

・私も全く同意見で、この説明のところは全面的に賛成なんです。

震災前も継続も含めてということは大賛成なんですけど。そうするとやっぱり「震災後の」って言葉をあえて入れる意味は何なんだろうかっていうのを資料を送っていただいてからずっと考えていて、むしろ「前後」を取っちゃったほうがいいのかな。中の説明の中で、こ

ういうのが入ってくれば、「なるほど」ってわかるのではないかっていう気がしていました。

表現なんですけれども、「地域活動からの学び」っていうのもちょっとわかりにくいのかになってということで、私の言葉の好みかもしれないですけど、「地域活動をとおした学びを踏まえて」がいいと思ったんですけども。趣旨は大賛成です。

(澁谷議長)

2人の委員さんから共通していることは、趣旨については全く賛同するものでありますが、その表現のところで、「震災後」ということについての御意見でございました。

齊藤委員さんからは、「震災前後」の表現、あえて無理につけないで取ってしまったとしてもという御意見などなのですが。ほかの委員さん方、いかがでしょうか。その辺につきまして。どうぞ、御自由に。

(坂口委員)

・賛同するんですけど、私も2人の御意見にですね。「後」を取るのではなく、素直に「前後」と言ったほうが私のイメージでは、中も含めてあるのかなと。「後」を取っちゃうと、「震災中」というふうなイメージが強くなるような気がするんですけど。

「前後」も取りたい気持ちはあるんですけど、どっちかと言われたら「前後」つけたほうがまだ、(3)番が素直に読めるかなという気はします。

(澁谷議長)

・はいどうぞ。

(佐々木とし子委員)

・今回、いろんな地域に行くんですけど、そこの中に震災を経験してというものがいっぱい出てきているので、今回のこのテーマの中に「震災」というのが必要なのかなということがあれば、単なる「地域活動」と出すと一般的なものになるのかなという感じがするんですけど。

だから、やっぱり「震災」という言葉を入れながら、うまく震災後ではなくて「震災前後」を入れていくという、その言葉をどういうふうにしたらいいのかなってところかなと思いますけどね。

(澁谷議長)

・はいどうぞ。

(佐々木淳吾委員)

・この「学びをとおして」という部分もちょっと実は、よく考えると曖昧だなと僕は感じていて、この学びって二とおりの意味に取れると思うですね。一つは、震災後の地域活動から

参考になったことという学び。それから、まさに（２）のところで言っているような、あるいは（１）のところで言っているような、世代を超えた、あるいは人と人の垣根を越えてつながっていくそういう、学習という意味の学びですね。

両方に何か取れてしまうので、このサブタイトルの学びは、どちらなのかなって考えたときに恐らく（３）のほうを言いたいんだと思うんですね。ですから、「震災前後の地域活動から学ぶ」とか、何かそういうようなそれを参考にすると言うような意味を全面に打ち出してシンプルにしたほうがよいような気がします。

すみません、うまく伝えられないんですけど。その「学び」の意味が絞ったらいいのかなという感じがします。

（澁谷議長）

・中路委員さん。

（中路委員）

・趣旨については、私も大賛成です。

サブテーマの言葉として「震災」という言葉は、今までの私たちの話し合いの中でも、宮城県を捉えたときに外せないものではないかということで話しが進んでいったような気がしますので、「震災」という言葉については残したほうがいいのかと、思います。

また、さまざまなテーマの捉え方があるかとは思われますが、三つの視点から、ここに「後」と入れることの意義を考えると、震災の「後」だけではなくて、震災の前からどうだったかということも通して探っていくことが必要だと思います。そこで「震災前後」という言葉で、前の部分を表すのがよいと思います。

それから、「学びをとおして」の「学び」の点なんですけれども、前に事務局から出していただいた文言でも確か最後「学ぶ」ということでまとまっていたと思います。今日提出していただいたプリントのテーマの捉え方からも、その学びをとおして調べるのではなくて、そこから学んだものをまとめ上げていくということを考えると、「とおして」を取って「震災からの学び」で表したほうがいいのかと思います。

（澁谷議長）

・ありがとうございます。

いろいろ、思いは根っこは振り乱さない、捉え方とやっていこうという方向は全く同じなんですけど、ここのところのサブテーマを設定するにあたっての表現のあるいは、意識の違いが微妙にもあるのかなっていうふうに思います。

まず、「震災」という言葉については、これまでの話し合いの中で、宮城らしきと言いますか、出てきたときに宮城らしいコミュニティというふうなときとか、いろんな話の中でやはり震災というものは、外せないだろうというふうなことで進んできたような気がしま

す。

そういったことで、まずは、「震災」をサブテーマの中に入れるということについては、よろしいでしょうか。あるいは、これまでの話を総合しますと、やはり「震災後」というふうにすると読み手にとって非常に誤解を招くような表現にもなりかねないということで、「震災前後」という言葉を入れていきたい、またはシンプルに「震災」とする、これらについてはいかがですか。

あと「学び」、「とおして学び」とか、それから「学びをとおして」とかものについては、これは、どういたしましょうかね。今まで出た中で。ちょっと、言葉の取り方で微妙な差が出てくるというようなことなので。これは、まとめますか。

(事務局)

・どうでしょう、最終的に決めればよいと思うので、今、皆さんのお考えが大体方向は一致していると思いますが、その語尾のところの案をまとめると、「震災前後の地域活動からの学び」、「震災前後の地域活動からの学びをとおして」、「震災前後の地域活動からの学びを踏まえて」とか語尾を「踏まえる」とか「とおして」にするかとか、体言止めで「学び」とあとは、「学ぶ」にするか、それによって受けるニュアンス確かに違うのですが、今のところで、今、整理した形でこのまま保留にして、これはあんまり大きい問題ではないので、視察とか踏まえてやっていく中の現実を見たときに一番びったりくるようなことを次回確定するというところでどうでしょう。

(澁谷議長)

・「震災前後」というふうなところと、あとは、「学びをとおして」あるいは体言「学び」というふうな表現の仕方を変えたいいくつかの案を何件か出していただいて、あとニュアンスを調整して進めていくというようなことでよろしいですか。

(「はい」という声があり)

(澁谷議長)

・それでは、ありがとうございました。

続きまして、三つの視点というふうなことについてですが、今までの話しの中でも審議テーマの捉え方については、全く賛同するような御意見がたくさん出てきたと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか。

(事務局)

・すみません、一つ補足説明をさせていただきます。前回の話し合いの中で、成功例だけではなくて、ぜひ失敗例からそれを対比することで学ぶことがある、そして、それによって新

しいコミュニティづくりが見えてくるものがある、と多くの委員さんから御意見をいただきました。そのことを受けて、事務局として地域と連絡を取り合ったり、準備を進めてきましたが、実際にはストレートに「失敗した場所」ということは言いにくいのです。つまり、「あなたの場所は、失敗したからそれを聞きに行きたい」というのは、やはり言えないですし、その失敗したと思われているところも必死に皆さん頑張ってらっしゃったけど、うまくいってないってところがあったり、逆にうまくいったと思われているところにもたくさん苦労があったはずですよ。皆さんお分かりのとおり、たくさん失敗があったり、壁があったりってというのが実態であると思います。

そこで、失敗例から学ぶというよりは、視点1のようにうまくいった他に阻害する要因は何か、うまくいった中にも難しいところがあったり、現在も抱えている課題があるのではないか、という視点で調べることにしてみました。

ただ、実際に確かにコミュニティづくりですごく苦労した地域はあるように聞いているので、そこについては、地区名を限定するのではなく、うまく聞き取り調査の中で、そういう要因について、光を当てるような形で入れていければ、と考えています。この間の話し合いのポイントの一つだったので、そこをうまく皆さんにお伝えしなければいけないなと思っておりました。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。確かにそのとおりで、難しいところがございますが事務局の御苦労はわかりました。どうぞ。

(伊勢委員)

・多分本当に言葉の使い方だとは思いますが、失敗と言うとやっぱり私たちの意識の中で、あまりよろしくないという意識がすごくあって、今のやっぱり子どもたちを見ても失敗をすることを恐れているとか、失敗ができる経験、要はチャレンジする場が少ないというところが根本的にあると思うんですが、全ては経験だと思うので、失敗という言葉ではなく、その経験というところでどういうふうに課題を地域の皆さんで解決に向けて取り組んできたかっていう経験を聞けるといいのかなと思います。

それで、結果的にそれがどうだったかっていうところで、そこにまた改善が加わってどういうふうに動き出したのかっていうところがあるので、アプローチの仕方とかやり方が多分、たまたまそのときは合わなかったとかということだと思うので。そういう経験と課題の解決、阻害する要因というよりは、その課題をどういうふうに捉えて、どういうふうに解決しようとして皆さんで取り組んできたかっていうことを聞けると嬉しいなと個人的には思っております。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。そのほか、御意見はございますか。

それでは、今、サブテーマ三つの視点につきまして、視点1について、今事務局のほうから、委員さん方々からもお考えが出されたんですが、このことにつきましては、共通理解をいただいたということによろしいでしょうか。

それでは、次の調査研究について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

・それでは、別紙資料のA4の横版、資料1をごらんください。また、本日の審議紀要の裏面6の事例も合わせてごらんいただきたいと思います。一つ一つ説明をしていきます。

今回8つの地域でを、ピックアップしました。

1番、南三陸町の戸倉地区です。ここは、震災前、佐々木社教主事を中心に宮城の協働教育に取り組んでいた地区です。戸倉地区。震災後、地域のキーパーソンの村岡さんという方です。村岡賢一さんのもと、子どもたちが地域の伝統芸能である獅子踊りに取組、地域を元気にしていった取組です。

その活動は、中学生、高校生にも広がり現在も続いております。今年、先日行われた六魂祭の仙台の大会にも出ておりますし、今度の9月8日の視察では、今も続けている村岡さんが小学校に入っの総合的な学習で、踊りの指導をしているところも見せていただきます。また、社教主事が取り組んできた宮城の協働教育が、震災後の新しいコミュニケーションの再生につながった話も、実際に携わった社教主事も踏まえて来ていただいて聞き取り調査をする予定であります。これが第1点ですね。南三陸町の戸倉地区。また、村岡さんは地元の青年団、漁協関係の青年団などの活動もされていて、その地域のコミュニティをうまく震災前にでき上がったコミュニティを、震災後さらに活用して再生していったという取組になっています。

2番です。女川町。これも派遣社教主事の2人と遠藤進さんといひまして、震災当時、避難所の自治会長された方に聞き取り調査を行います。

これは、震災から6年たっていますが、非常に生々しい話しですが、色川社教主事は、当時女川の生涯学習センターに来館された方と一緒にいて被災をしています。3階建ての屋上部分にある給水棟に来館者を誘導しましたが、津波はそこを超えました。施設全体が水没したのです。一番上の給水棟はコップを伏せたような形になっており、気密性が高かったがために膝まで水が止まり、危機一髪というところで水が引いたという経験をされたそうです。その様子を遠くから見ていた人は施設の中に生存者がいることは諦めた、という経験をされた方です。社会教育の手法を使い、避難誘導から、震災後すぐの学校の立ち上げ、地域のコミュニティづくりに力を発揮しました。そのときに一緒に取り組んだのが地域の代表の遠藤さんということです。取組の概要は、震災直後の避難所の運営。それから日々の命を繋ぐ活動支えた遠藤さん、色川社教主事の取組。そしてそこからの新しいコミュニティづ

くりと日常を取り戻すための実践です。

大きな被災地ですし、町が崩壊したところから新しいコミュニティをつくるとかなり苦労されたのですが、復興が進む中、当時の生々しい話を伺う機会は減ってきています。震災から6年たった今だから語れる中身もあるということなので、色川先生にも、その日現地で話しを聞かせていただこうと思っています。

3番。NPOみやぎ・せんだい子どもの丘です。こちらはですね震災直後から取り組んだ仙台市荒井地区における子どもの遊び場づくり、コミュニティづくりの取組です。

数々の困難を乗り越えた取組で、地域の笑顔を取り戻しています。NPOみやぎ・せんだい子どもの丘の理事の高橋さん、お二人と実際にこの事業に携わった現場の職員にもお話が聞ける予定でいます。

ちょうどこの取組は、この春に運営を地元のコミュニティのお母さん方に受け渡したということで、人材育成や地域の新しいコミュニティづくりにNPOの方々が上手に関わった例として取り上げています。

日程を空けてあるのは、こちらはかなりの日程の融通がきくので、希望される方の中で日程調整をしようと思っただけのことです。

4番、鳴子の米プロジェクト。これは、御存知の方も多と思います。公民館、地域、外部ネットワーク共同による「ゆきむすび」という米づくり。それから、販売による地域おこしの取組です。マスコミ等でも数多く取り上げられております。

もう、十何年にも渡る取組なのですが、実はこの取組は震災で1回途切れしました。お店が「むすびや」というゆきむすびのおにぎりを売ってお店が壊れてしまったんです。しかし、この3社共同の取組の下地があったがために、全国から寄付が集まって、今年の5月に中山平にまた新しいお店を復活させたということです。外からのNPOやいろいろな方が協力して、行政、地域が協力した形の新しいコミュニティづくりがあったがために、震災を乗り越えて再生ができたという例です。

5番、名取市公民館市民ワークショップ。震災後、公民館が主体となって住民のニーズを知るために公民館の将来像に関する社会教育調査を実施し、住民参加型のワークショップを実施しています。行政の枠組みの中で葛藤や多様な意見の取りまとめに悩みながらも、公民館活動の原点ともいえる取組をされています。昨年から今年に掛けて非常に特徴的な取組をして、社会教育に携わる職員の研修会でもお話をいただいている取組です。身近なところに、とても素晴らしい公民館活動の原点とも言える取組がされています。また、名取市は被災地ですので、被災地での震災後の活動にも大きく、まちづくりの視点で絡んでいる取組でございます。

6番、登米市米山公民館。指定管理運営です。人の集まる公民館活動の実例です。この米山公民館、とってもたくさん連日人が集まっているということです。公民館の企画や職員のパーソナリティーにより連日多くの方が賑わっているこの公民館の特色についてお話を聞く予定です。かつての青年団活動や、かつての社会教育主事等の取組の種が花開いたところ

があるようですが、ここについては私もまだ詳しくはお話を伺っておりません。いろいろなところからよい評判が聞こえてきている公民館です。

7番、石巻高校生カフェ、かぎかつこと読みます。「石巻2.0」。これは、新しいコミュニティを支える若者、NPOの活動です。

まず、高校生カフェのかぎかつこですが、これは平成25年度、こちら第30次社会教育委員の会議でも取り上げていますが、その後の様子を聞いていきたいと思えます。

これは、NGOが立ち上げた石巻まちづくりクラブを中心に小中学生が実技参加した夢のまちプランという中で、高校生たちが取組を始めたカフェです。ただカフェでコーヒーなどを出すだけではなくて、地場産品を販売したり、ネットに挙げてそれを販売するという活動も広がってきています。石巻在住だけではなくて、石巻の高校に通っている石巻の外の高校生たちもそこに入って活躍してますし、高校生だった若い人たちが大きくなって戻って来て、その組織を支えるという今、循環の時期に入ってきているところです。

「石巻2.0」。これもNPOです。外から入った若者たちがネットワークをつくって、多様な活動をしています。特に特徴的なのは石巻市立桜坂高校、伊勢委員と一緒にされていますが、授業に入って高校生によるまちづくりの実践を支えています。例えば、市役所の職員が高校に行って市のいろいろな課題、地域課題を提示し、高校生はそれについて長期に渡ってグループ学習、いわゆる、アクティブランニングを重ねて、まちに提言をする、という実践を積み重ねています。そしてその間をつないでいるのがこのNPOです。

(伊勢委員)

・若干違います。

(事務局)

・すみません、当事者がいらっしゃいますので。

(伊勢委員)

・今の3年生のプロジェクトで「2.0」さんがすごくかかわっているのは、1年生でやっている街中ポスタープロジェクトというのにかかわっていただいております。

プロジェクトは合っているんですが、かかわりが1年生のほうが今、主というか地域の四十何カ所の事業所に最初にアプローチしていただいて、受け皿となってくださるところにコーディネーターとして入っていただいて、その活動を支えていただいたり、あと今3年生のコミュニティデザインという授業のほうで少人数ですけれども、授業のほうに入っていただいて、あとは、「2.0」さんに関しては、今、石巻に西高校とか、あと飯野川高校とかほかの高校さんにも入って授業をサポートしていただいているという団体です。すみません。

(事務局)

・また、「2.0」さんは多くのNPO団体のネットワークをつくる中心となってもいます。この間フォーラムがあったんですが、気仙沼の「底上げ」等若者が中心となったNPOがあるのですが、それを上手くつないでネットワークづくりに貢献しています。

今回、その拠点である「IRORI」という場所に調査に行きます。

最後です。石巻市立鮎川小学校です。震災直後に招待された秩父で聞いた和太鼓に感動した小学生が地元で廃れていた「牡鹿銀鱗太鼓」を復活させたいと願い、先生と地元の指導者に相談して活動を始めたものです。鮎川小学校は、幸いなことに高台に学校があるので、子どもたちはみんな無事でした。両親を亡くした子どもはいませんが、祖父母、親類を亡くした子どもたちはたくさんおり、8割の子どもたちが家を流されました。

鮎川のまちはほとんど壊滅状態なんですが、そんな中で公民館に埋もれていた泥だらけの太鼓を洗って、太鼓の活動を子どもたちが主体となって始めました。その地域の指導者、斎藤富嗣さんに今回はお話を伺いますし、現指導者の本田先生にもお話を伺います。

8月6日に行ってまいります。震災後諸事情で8月始めにできなかった鯨まつりが、7年ぶりにもとどおりの日程で行われることになりました。今回はその様子をご覧いただくこととなります。この会議の中でもお話があった1番と同じように、子どもたちの地域芸能、地域の伝統芸能への参画、その点でお話を伺っていきたいと思います。

以上、事務局原案はこんな形なのですが、「さらにこういう視点のこういう場所がある」等のご意見がありましたらお教えいただければと思います。以上です。

(澁谷議長)

・大変お疲れさまでございました。

事務局のほうからさまざまな手立てで、現地視察の場所と内容等をお示しいただきました。今、御説明あったことの中で、まず、A3の中からこの中身についてキーワード、キーパーソン、取組の概要等を示されておりますが、もう少し詳しく聞いてみたいとか、あるいは確認しておきたいとかそういうことがございましたらまず、最初、お出しただけであればということです。先ほど来、確認されていた審議テーマに迫るための3つの視点というふうなことで「コト」「ヒト」「モノ」といったような観点から他あれば、テーマとの捉え方の中で。

(伊勢委員)

・すみません、教えていただきたいんですが。米山公民館さんが指定管理運営をされていらっしゃるんですが、いつからどういう、旧青年団等と書いてありますが、今請けていらっしゃる母体となっている団体さんというのは何かあるんでしょうか。

(事務局)

・地域コミュニティの団体さんなのですが、今館長さんはもともと、市の職員だった方です。

社会教育に携わった経験のある方が館長さんで、職員さんは今の指定管理会社の職員です。

(伊勢委員)

・何という団体で、指定管理になったのがいつなんですか。

(事務局)

・すみません、現在資料がなく、即答ができません。

(澁谷議長)

・今、指定管理等の話が伊勢さんのほうからありましたが、これまでの話の中で何度か指定管理、宮城県の社会教育を考える、そして公民館っていうものをキーワードにしたときに現実的な問題として、指定管理というふうなものがかかなり浸透しているということ。それを踏まえた上での選択の一つなんだろう。この公民館は私のところを話しすると、いわゆる地域振興会が、組織が、請け負う形なんです。大崎市の指定管理は、大体、田舎はみんなそういう形にならざるを得ないんですね。実際、公募しませんので。非公募ですから。加美町もそのような形で。地区コミュニティ組織、自治組織にお金を入れてそのところで組織をつくって人をお願いをして、職員というふうな形で給料を払うというふうなことのパターンが恐らく田舎では、田舎というか、私が住んでいる近辺では一般的な取組なんです。公募したらという話もしたことはあったんですが、ずっと非公募なんですね。担当の方に聞くと受け皿が、受け皿って言葉という言葉いいかわからないんですが、受け皿がないからだという答えが返ってくるんですが、これからも、これまでも、これからもそれでよいのかなという非常に疑問があるところではございますが、具体的な話に戻しますと、ここの米山公民館さんが地域で請けたところではなくて、ある団体が名乗りを上げて自分たちでやりたいということを調査したいところですね。

(事務局)

・全体じゃなくて、それが融合しているような可能性があるんで、そこも合わせて調査をしたいと思っています。

(澁谷議長)

・わかりました。

(佐々木とし子委員)

・この間、登米市のいろんな公民館の館長さんだったり職員の方とお会いしたんですけど、登米市は、随分指定管理が進んでいてほとんどが指定管理の公民館だって話をされていて、この米山公民館はその中でも特に目立っている公民館なんですか。

(事務局)

・そうです。ここに関しては社会教育等職員研修会などで「よく人が集まっていますね」という評判が聞こえてきます。私も直接調査に行けてないんですけども、地区教育事務所の公民館訪問からも特色のある取組が報告されています。登米市は、こういった指定管理のところでは社会教育主事講習を受講させることが最近多く、ここ2、3年市の職員でないいわゆる公民館職員が社会教育主事講習を受講しています。登米市は注目すべき館が多いと思います。

(澁谷議長)

・成功事例のどこを見に行くのはとてもいいことだと思うんですが、ひょっとして、見に行くのは難しいかもしれませんが、阻害要因が多くて上手くいっていないところのほうが多いような気がするんです。何となく。そういったようなところについては、調査をかけるとか、何が上手くいっていないのか、そういった本音のところの部分なども聞いてみるっていうアプローチも大事なのかなと思って聞いていました。

ちなみに去年、宮城県の公民館大会、研究大会に佐々木淳吾委員さんも参加されましたが、そのときに指定管理で出た方が話題提供になったんですが、「本音の話で言うと、予算が足りない」という話なども生のお話で出て、実質管理運営費だけで、いただいているお金のほとんどは使わざる得なくて、実際の事業費っていうのは本当に少ないと、だから新しい事業とか、地域づくりのための事業を起こそうとしても、なかなかその事業費そのものが足りないというふうな話題などもチラリと登米の教育委員さんへ行ったんですが、お話をしていたことを今ふと思い出したんですが。くどういですが、上手くいっているところということと、一緒に何か課題になっているそういうようなところなども吸い上げる。示される報告書であればいいなというふうなことで。余計なことでした。

(事務局)

・今のことなのですが、この後提案します資料2、資料3の調査の中にそういうことを拾えるような形で工夫してあります。例えば、公民館の予算等については大きな調査を特に指定管理の団体さんには県の調査をかけられていなかったもので、今回、指定管理の施設等についても御協力いただきたいと考えております。

それから、聞き取り調査の中でも、先程の6番の公民館や、指定管理だけでなく1番から8番まで成功事例として挙げているところですが、成功していてもいろんな壁があるのです。例えば、聞き取り調査の中でも、例えば3番のせんだい子どもの丘さんの話を聞いても、最初は全然うまくいかなかった、と言っていました。子どもの遊びを立ち上げたらもう周りから文句はくるわ、「なぜ子どもは遊ばせるんだ」と石をぶつけられそうな勢い。本当にもうやめてしまおうと思ったんだけど、ということがあったそうです。1番の戸倉も鮎川小学校も、地域を立て直そうと言っていますが、過疎が進んでいって、こうやって震災後立ち上がってきているのだけれど、今後の未来は？新しいコミュニティは？という課題を抱

えてるといふ実態があります。やはり、それぞれの事例の中で、この聞き取り調査の中で出てくると、今言ったことがですね浮き上がってくると思うので、次回の報告会の中で、皆さんのそういう課題についても共有をして、解決策が見えてくればいいのかと考えているところです。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

それでは、今資料1に基づいて事務局のほうから、視察というふうなところでの御説明をいただきましたが、この点につきましては、よろしいですか。あとは、よろしいというふうになれば、委員の皆様がそれぞれ自分の日程等で可能な限り御参加いただくようなセッティングをしたいと思います。よろしいでしょうか、この示されたものについては。

そのほか、各委員の皆様方でこういうふうなところの、こういう事例があるので視察候補に入れてみてはどうかということなどもし、情報としてあればお話いただきたいなと思います。もし、あと何かあれば事務局のほうに情報提供していただければありがたいというふうに思います。

それでは、これから具体的に、誰がどこの候補地に行くかというふうなことで、本日の段階で固めてしまわないといけないと思いますので、その辺の調整に入らせていただきたいと思いますが、事務局のほうから進行を、お返しして進めていきたいと思います。

(事務局)

・10分ほどいただいてここで調整したいと思います。

事前に御意見いただいたりしていたんですが、今日になって変更になっていたり、情報が変わっている方もいらっしゃるので、再度、第1希望から第3希望まで頭に描いていただいて、ここで入れられるものを入れていきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

まず、1番なのですが・・・その前にですね、視察に関しては、旅費と日当の関係で、本当は、いろんなところにいろんな方がたくさん希望どおり行っていただきたいのですが、限界もありますし、お仕事の関係もあるでしょうから、一応お一人1回。空きがあり、御都合がつけば2回という形で調整したいと思います。

それから、さっき言った3番と6番に関しては、かなり幅広く見学ができるので日程を空けてあります。それから、平日は参加がなかなか難しい方のために、鳴子の米プロジェクトは土日に行こうと思います。12日に一応仮予約を取っていますが、さらに希望があれば変更可能です。それ以外に関しては受け入れ先の職員等の勤務の関係で、土日の視察が難しいということです。それを踏まえて調整しますので手を挙げていただいてもいいでしょうか。

1番、戸倉地区。これは、車2台用意していますので、かなりたくさんの方々に参加可能です。これは、1番は名取と組み合わせて朝、名取に行って、そこから戸倉に上がって行きます。時刻はこういう形なので、8時半位にスタートして5時ごろくらいに戻る形になります。

すが、これを希望される方がいいかでしょうか。名取と戸倉地区。いらっしやらないですか。いいですか、8日、佐々木委員と佐々木委員。

(澁谷議長)

・9月8日ですね。

(事務局)

・9月8日。お二人。はい、わかりました。

それでは、9月20日、これは女川、遠いので女川だけです。9月20日の水曜日、女川の視察。多いですね。坂口委員、杉山委員、星委員、相澤委員、齊藤委員。

4番の9月12日の鳴子の米プロジェクトこれを希望される方。いらっしやらないですね。そうすると、逆に土日のほうがいいという方。例えば、16日の土曜日はどうでしょう。

ここで希望される方の日程が合えば、今度は先方と再交渉します。もし、今、決まらなければ、あとで調整をしますが、もし今、日程がわかれば。後ほど調整をしたいと思います。坂口委員はどうですか。土日のどこかで空いているところ。

(坂口委員)

・土日も相当予定が詰まっている。

(事務局)

・そうですね、後でそれぞれ個人的に相談するような形で行きます。では、3番NPOのせんだい子どもの丘と米山公民館、こちらを希望される方。米山、はい。米山お二人。

(佐々木としこ委員)

・子どもの丘というのと一緒なんですか。セットなんですか。

(事務局)

・いえ、別で大丈夫です。

(佐々木としこ委員)

・みやぎ・せんだい子どもの丘と、もし別になるんだったらそっちの方が。

(事務局)

・わかりました。子どもの丘のほうに佐々木さん。米山が今手を挙げていただいた方。

星山委員、中路委員、伊勢委員さん。手をまだ挙げられてなかった方、いらっしやいます。

(澁谷議長)

- ・ 8月6日はエントリーしたので遠慮したのですが2回でもいいですか。

(事務局)

- ・ 1回が基本ですが、もし希望があればお受けいたします。ゆとりがある場所であれば。

(澁谷議長)

- ・ 比較的近くの米山公民館に行ってみたいと思います。

(佐々木淳吾委員)

- ・ 複数回も可能ですか。

(事務局)

- ・ 2回までなら。

(佐々木淳吾委員)

- ・ それなら、私もみやぎ・せんだい子どもの丘に伺ってみたいと思うんですけど。

(星委員)

- ・ 私もせんだい子どもの丘。

(事務局)

- ・ わかりました。

今日、欠席の方々の分も調整いたしますので、今伺ったことを中心に第1回の視察まで時間があるので、それぞれ連絡させていただいて、集合場所とか当日の動きとかをお知らせしたいと思います。今日、まだ決まっていない方々は、御都合をお聞きして視察先と調整をいたしますので、委員長さんありがとうございました。お返しします。

(委員長)

- ・ 確認はしなくても大丈夫ですか。

(事務局)

・ 確認します。南三陸、戸倉それから名取が一緒なので、そこが、佐々木淳吾委員と佐々木とし子委員でよろしいでしょうか。2番目の女川町は、齊藤委員、相澤委員、星委員、杉山委員、でよろしいですか。

鳴子の米プロジェクトはまだ決まっておりません。

それから登米市米山公民館が澁谷委員，星山委員，中路委員，ということでよろしいでしょうか。8月6日はエントリーがされています。土日等の日程ですね。お二人の。

(事務局)

・分かりました。では，委員長さんにお返しいたします。よろしくお願いいたします。

(澁谷議長)

・お疲れさまでした。それでは，次にアンケートについての話し合いに入りたいと思います。事務局のほうからお願い申し上げます。

(事務局)

・皆様からの事前の御希望とか御意見をいただいたものを中心につくってみました。

資料2，実地調査先で実施する調査票です。これにつきましては，今挙げた1番から8番までの視察先については実施するのですが，やり方によっては，この調査を広げる方法もあります。例えば，NPOさっき言ったような団体さん。今回，行かないけれども名前の挙がるようなNPOさんに同じような調査をかけるという方法があるんですが，これについては，この後御意見をいただきたいと思います。

お手元の資料2の中身ですね。調査メモのアンケート調査の部分。これを今回行く聞き取り調査以外にも広げるかどうかということと，このアンケート調査の中身。この2点について御意見をいただきたいと思います。

続けて，資料3をごらんください。資料3は，公民館等，先ほど話をしたとおり社会教育関係施設へのアンケート調査です。この社会教育委員の会議の第4回や第5回でもいただいた御意見をもとに，現公民館職員の方々の意見も取り入れて作成をしています。

調査範囲は，これまでの法的，社会教育法で規定されている公民館にとどまらず，指定管理制度によって，公民館からコミュニティセンターへ変容した元公民館施設やまちづくり等を担っている部署等教育委員会以外の所管する社会教育施設にもお願いしようと思っています。従って，毎年行っている社会教育調査よりも幅広く，社会教育に関連している施設にも調査をお願いし，約300弱の標本数となる予定です。

ただし，この会の中でお話のあった地区館やいわゆる集会所まで広げるのは難しいので，先ほど申し上げた公民館の外側にある施設までの調査にする予定です。

それでは，資料2，資料3のアンケート調査，聞き取り調査票について御審議をどうぞよろしくお願いいたします。

(澁谷議長)

・それでは，最初に今日お渡ししていただいた資料2につきまして，御意見を賜りたいと思います。聞き取り調査票です。

確認させていただきたいのですが、今の資料2の聴取・調査メモっていうのは、これは、当日現場に行ったときの話し合いの流れのものなのですね。

(事務局)

・はい。

(澁谷議長)

・その下のアンケート調査、(安定)のこれはその団体に、この方々に事前に調査をかけているということですか。

(事務局)

事前にといいいますか、その場でお渡しして書いていただいてあと送り返していただく形になります。調査メモとかぶるところがあるのですけれども、聞き取りができなかったり、聞き取りに行かない団体さんにも調査かける場合に、ということも想定してつくって見たところでは。

(伊勢委員)

・すみません。内容的には、取組の成果、新しいコミュニティづくりに有効だったこと、念頭に描いた展開みたいなどころと、先ほど言っていた阻害する要因というところはあるのですが、もし、流れを考えるのであれば、例えば有効だったことの後にそこに至るまで大変だったこと何ですかみたいなどころで、経験、課題、どう乗り越えてきたかみたいなどころがあって最後に明るい展望で終わりたいので、最後に重い話は、暗いと気持ち的になるので、最後に今後の願いとか展望とか考えていることっていうことで持ってきていただけたらいいかなと。

(佐々木淳吾委員)

・放送のインタビューなどはそうだと思います。それでVTRを構成します。

(澁谷議長)

・伊勢委員さんのおっしゃるとおりだと思いますね。

最後に阻害するよりものはないですか、実は苦勞したっていうよりも、有効だったこととかそこで一緒に絡んだほうがいいのか。これは、委員さん方みんな同じで問題ないですよ。この順番につきましては。

(佐々木とし子委員)

・もう一つお聞きしたいんですけど、例えば、「こういうのしょう」って思った動機とか、

その発想とかが一体なんだったかっていうのがないと、最初に「もうこれありました」じゃないと思うんです。どこでも取り組もうとしたときって、誰かが「こういうのやってみよう」とか「こういうのいいんでない」とかっていうそういうものがあって、「あ、いいね、いいね」って賛同する人がいて、「いや、そんなのこうだって」逆に阻害する人もいて、でも、こういうのを乗り越えてこういう取組が始まりましたというものがあるのかなと思うので、その一番最初のものを聞きたいなと思ったんですけど。

(齊藤委員)

・よろしいですか。2点ほど。まず、聞き取り調査メモのほうのこの説明という部分、順番は今いろいろ議論となったところで時系列で聞いたほうがいいかなと思うんですが。①から④までであるとして、これは事前に相手方に通告をされている形のものというふうに考えていいのかどうか、それから後は8カ所調査先、団体ありますけれども、ここに今、基本的には共通する要素でかけていこうという意図がおありなのかなと思うんですけど、一応その点の確認をさせていただければと思います。それから下のほう、利便にあたるアンケート調査案というところで、これは今の聞き取りほうと重なる点があると、これは多分恐らく聞き取りのときに不在だった団体等に対してというような趣旨だったと思いますけれども。

この項目を主体に見たわけじゃないんですけど、例えば1番の「あなたの性別、年代、職業等を教えてください。」というところ、仮に団体であるとこれ、団体の組織体制について、つまりいつつくられたか。NPO法人等々いろいろありますけれども、どういう趣旨でつくられた団体なのか。それから組織の人数であったり。そういう団体のプロフィールの部分と個人でやっている活動であれば個人のプロフィールになりますので、そこは若干違うのかなという点。共通のフォーマットにこのアンケート調査を落とし込んでいくのは難しい部分ももしかしたらあるのかなと思いました。確認をさせていただければと思います。

(澁谷議長)

・それでは、第1点目の聴取、調査ですが、この説明の、その順番が今協議しているとおりになんですが、全部共通、同じようにかけていくのか。

(事務局)

・はい。1番から8番までの視察先については、同じようにこの点については必ず確認をするというところですよ。

事前通告に加え、今日のこの会を受けて正式に決まった場合は、きちんとペーパーで、視察依頼とこのことを伺うので当日よろしくお願ひしますということをお伝えします。

2つ目の調査ですが、どこにかけるかによってその1番等の所属やプロフィールは変わってくるので悩んでいます。例えば同じ団体中でも、例えばかぎかつこさんなどに調査かける際、7人の高校生がいるのですが、そうなる構成の方々全員にかけて視察先のできるだ

け多い標本を集める方法と、ここで挙げた例えばキーパーソンの、ここで話題になっているキーパーソンの方に聞くという場合と。今、御指摘あったとおり、組織として答えていただく場合ということが悩んでいたところなので、お知恵をいただくとありがたいです。

(澁谷議長)

・わかりました。はい、ありがとうございます。

私もここを見て違和感を感じたのは、アンケート調査、団体名というのが先にあって、「あなたの」という個人名が出てくるので、最初、非常にあれこれってどういう調査なんだろうって、団体名が出てるんでしたらやっぱり団体の、多分書く人は事務局かそういう方なのでしょうから、「あなたの」というよりも団体で聞くんだったらその団体の成り立ちとか、構成とかそういった団体の要素などを聞いたほうがいいのかなんて思ってみたりしながらこの調査票を見ていました。

(澁谷議長)

・はい、どうぞ。

(相澤委員)

・ちょっとお聞きしたかったんですけども、私は、その当日、その場所に行ってどういう方々、人数とかそれからどういう方が来るかっていうような団体でいらっしゃる方、もしくはキーパーソンだけの方っていうふうに、ところどころ違うと思うんですね。

昨年、聞き取り調査をしたときには、一人一人というよりもその全体として、今、どういうことをやっているのかとか、どういうことをしていますかっていうような形で聞き取り調査をしてまとめたんですね。

このアンケート調査の案を見ると個人的な部分の問いのほうが結果的にまとめやすいとなると、逆に聞き取りというよりは記述式のほうのちょっと内容になっちゃうのかなって思ってたんですが。特に、裏方の、裏のほうで行くと、全体的に取組の成果というような形の聞き取りにはなるのかなと思うんですけど、どうしても表側は個人的な設問の色が強いかなって思っていました。

(星山委員)

・ここで、この場で調査の狙いをはっきりさせたほうが良いと思うんですね。

それぞれの地域にある団体のことを調べたいのか、団体のことを調べたいならばできれば面接方式でインタビューしながらずっと書きとってくると、そのぐらいの項目がすぐ出てくると思うのですが、それを自由記述で頼んで置いとくとなかなか出てこないっていうのが今までの経験でもあります。

ですからまず、団体調査っていうことを念頭においてどういう活動をしているのかって

いうことを抑えることを目的にしているのか。あるいは、今、皆さんから出ていましたけれども、そうじゃなくて団体のメンバー個人個人に、「どんな気持ちで参加したのか」「参加していて何がよかったのか」という、これは同じ活動に参加していてもメンバーによってかなり意識が違ったりしてきますから、その活動に参加して支えていた人たち個人のことを聞きたいと思います。両方やると手もあるんですけども、この場でその狙いというか、方向性をはっきりさせると対象者が決まると思います。そこが曖昧なままだと、なかなか進まないと思います。

(澁谷議長)

・はい、今、ここでしっかりと確認したほうがいいんじゃないかと。この調査の狙いが個人、人のところに関わることを狙って主といくのか、あるいは団体に、調査を団体としてのところを狙っていくのかってというので、今、星山委員さんからお話がありましたが。これは、事務局側としてはまずは、どこの視点をねらいにしますか。

(事務局)

・視点で言えば団体ですけども、実際に話を聞くときに団体と言えないところがあるので、悩んでしまったところです。

例えば、戸倉地区の地域の方と派遣社教主事っていったときに団体というか一つ取組として捉えれば、団体なのですけども、これについては地域の方の思いと、派遣社教主事、社教主事としての個人の考えも見えたほうがいいのか、という悩みです。しかし、皆さんの考えを聞いて、団体への聞き取りを主に置きたいなと考えます。

個人の集まったところのお話を伺うところも一つの取り込みの団体として捉えるということで、もし皆さんがよければ、先程御提案があったとおり、その場で聞き取り調査の形でどんどん必要なことを伺って埋めていく、という方法を、修正案としてここで提案します。

(澁谷議長)

・少し曖昧だったところを団体というところに視点を置いた形で実施するというお話でしたが、その辺よろしいでしょうか。

(佐々木淳吾委員)

・私、ちょっと、逆ですみません。ちょっと蒸し返しちゃうようなんですけど。団体のプロフィールとか活動内容といったものは、今、こういう時代ですからホームページとかメディアの記事、報道などでもいくらでも、行かなくても調べられると思うんですね。

それだったら、むしろそこで関わっている人たちがどういう気概を持って、どういう御苦勞を持ってその団体に力学として携わって苦勞されてるかとか、そういうなんか、多分、職業柄もあると思うんですけど、個人の苦勞みたいなものが、思いみたいなものが見えてこな

いと、調査としてすごく表面的なものになってしまう気がしています。はい。

だから、ちょっとそこは、どうなのかなというふうに、今、ちょっと、御意見伺っていて感じました。はい。

(佐々木とし子委員)

・一ついいですか。私も淳吾さんと同じ意見なんですけど。

私も母親クラブっていう団体の中で一つの活動をするときに、いろんな人が参加しているんですね。どういう思いでこの人たちが参加したかっていうのを、この一つのものとして「こうです」っていうのはあるけれども、そこに参加する人、一人一人の参加している人の思いとかそういうの聞きたいなって。それからこういう、私は、地域のこういうのにも参加しているんですが、いろんな職種の人が来て、一つのものをつくっているんですね。どういう人たちが集まってきて、どういう思いでここに来るのにどんなあれがあったりして来て、一つになってこの団体を支えているのかっていうのを聞くと、ほかの人たちもどういうところに声をかければこういうことができるかとか、そういうのが見えてくるのかなと思って、団体そのものよりは、その団体に来ている一人一人がどういう気持ちだったり、意見だったりして、参加しているのかなっていうのも聞きたいなって私の中にはあります。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。はい、どうぞ。

(齊藤委員)

・それぞれヒアリングの行先によって多分、相手方の対応の仕方って違うと思うんですけど、対応の仕方っていうのは、どういう方が、何人くらい出てくるのかって話ですけども。まず、その、それぞれの団体がどういう取組をしてきたかっていう事実レベルの話は、やはりヒアリング、この聞き取りに行く前にそれぞれで一応インターネットであつたり、あるいは新聞記事検索等々であつたりで調べておくことは、最低限、必要なタスクなのかなってことを思いました。

その上でなんですけれども、例えばその取組を實際行う上で、どういうところが課題だったのか、あるいは難しかったのか、あるいはそれがどういう上手く、よさにつながったのかということ、これは組織の中でもそれぞれの職員、スタッフによって分かれてくる点ではあると思うんですね。

その意味づけであつたり、評価であつたりってことを中心に置くっていうことは、異論はないですが、しかし、相手方がどういう形で人が出てくるのかという部分で、お一人、代表者の方がお一人で出てくるのか、あるいは複数のスタッフの人が出てくるのかということによっても現場、実際のところで変わってくると思いますので、さて、どこまでのことが聞けるんだろうかということ、仮に代表、ある団体の代表して一人の人が出てくるのであれ

ば、その方を代表者の方を中心として団体がどういうふうに取り組んでいたり、出来事を意味づけているかって話になるでしょうし、複数出てくるとそこでの違いっていうものも出てきて、多面的になるといいでしょうか。ですから、どういうふうなこのキーパーソン等って書かれている部分のスタイルの違いですね。後は、その行政系の人とNPO系の人が両方出てくるって場合であれば、それはその置かれた立場により意味づけの違いって当然出てくると思うんですけれども。どこまでの同意ができるのかっていうのは、それぞれヒアリングの実際どういうふうに行われるか、御参加いただけるのかっていう部分との関連になってくるのかなと思いました。

(相澤委員)

・すみません、こういうところを聞いてくださいという大きな設問は、ある程度共通でいいと思いますけど、あとは聞き取り側がどのように報告を書くかではないかと思います。

例えば、お二人だけ、今回、現場に行ったらお二人だけ言いました。誰々に聞きました、どういう方にどういうことをやっている方に男性の方で何歳に聞き取りました。ということこちら側の記述でそういうのを読み取っていけると思うので、あと20人来たら20人来ましたと、こういう形ですということで、そのアンケートに1, 2, 3の部分のように丸付けの方式にしてしまうと、そういう問題が出てくるので、こちら側の聞き取った部分の記述の仕方であとは、後でこう判断できるのかなと思うので、あとは大まかにここと、ここと、ここだけはポイントとして共通で聞きましょう、みたいなことを書けば、そんなにそんなに聞き取りなので、いいのではないかと思います。

(佐々木とし子委員)

・すみません、一つ確認したいんですが、当日行きますよね。そうするとそこに二人とか三人がいらして、その方たちに「これはどうなんですか。」ってこの中を聞きますよね。その後、質疑応答が終わった後にアンケートを渡して書いてもらうっていうことですよ。アンケートはそのほかここに来ていない、この代表して来た人たち以外のその団体から聞き取るアンケートではないですか。

(事務局)

・整理しますと、例えば、登米の米山公民館は一応お二人、ただ、行く日によっては、事業によってお二人しか正規職員がいない上に、行った日の事業によって対応できる方が変わってくるので、一応、館長さんとその職員の方お二人。それから、7番の石巻のかぎかつこと「2.0」は、かぎかつこからお一人、「2.0」はお二人。というように、一つの団体さんから二、三人ぐらいの方にお話を聞く予定です。

それから鮎川小学校は、さっき言ったとおり、地元の指導者お一人と先生一人。または、校長先生もその場にいらっしゃるの、校長先生にもお話を伺うことで三人ですね。

上に戻っていくと、5番は、中心となった中山さんお一人です。上司の方つきますが具体的な事業をやっていたのは中山さんなので、中山さんお一人に話を聞く予定です。

4番は、そこに書いてあるとおり、阿部さんと上野さん。3番は、高橋悦子さんとコミュニティづくりの取組をされた現場の職員。

上は、1番、2番については、さっき言ったとおり地域の方一人と派遣社教主事、二人。なので、大体どこも二人から三人をお願いしているところです。

アンケート調査については、団体だけではなくて個人に聞くことも想定したのですが、例えば石巻2.0さんのような若者のネットワークでは関係者が当日、来ていたり、来ていなかったりします。このような実態から、スタンスを決められないところだったので、皆さんの御意見をいただければと思います。

(澁谷議長)

・はい、どうぞ。

(伊勢委員)

・今、お話を伺って、私、勝手に自分の中でグラフィックして整理をしたんですけども。

今回、何のために調査行くのかなと思ったときに、やっぱりテーマに沿ってだと思っすね。

そうしたときに、やっぱり私たちが立ち戻るのは、この「世代を超えて紡ぎあう宮城らしいコミュニティづくり」につながるためのヒアリングやアンケート調査であって、その視点として、一番最初に震災で戻った活動からっていうことがあったので。

まずは、その取組が真ん中であって、それにいろんな人が関わっていて、その個人個人が集まって団体になっているという構図があって、その団体、どなたにお話を伺えるかは団体によって立場も年代も違うっていうことですよ。

その位置づけを多分、私たち、一人一人がしっかり持つってということと、あとは、その震災前後ってところの視点が多分、今のこの視点からだとし少し足りないような気がしていたので。アンケート調査の中とかでも例えば、文言として震災がどういうふうはこの取組に影響を与えているかといういろんな視点が入ってもいいのかなとは思いました。はい。その成果として、結果的にコミュニティづくりにつながっているんだよということがわかるように個人の取組だったり、考えだったり、そして、団体としてどうなって、それを解決していったかという視点を上手く聞き取れるといいなとは思っています。

すみません、以上です。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございました。

このアンケート調査について、いろいろ、いろんな考え、スタンスはもちろんあるんです

が、基本に立ち返れば、原点に戻ればやはりそのテーマに迫るための視点とかそういったようなことが出てくるんじゃないかなと思います。

まずは、決めてしまわないといけませんので、この二つあるような気がします。個人か団体かっていうようなところで。その辺について対応してくださる団体、人、それぞれ違うので、これは、固定的なものじゃなくてその場に対して柔軟に対応してみようということでしょう。

(事務局)

・アンケート調査の最初の数字的なものは、皆さんの事前の、皆さんに聞いた中で最初は数字的なもので入ったほうが書きやすいという御意見があったので入れたのですが、今日の話し合いで紛らわしいということが明らかになりましたし、一応、団体を頭に描いて行くのであれば、数字的なところは特に取らずに記述のものを中心にして、テーマに立ち返った形のもの聞き取りを中心として調査をするということにしたらどうかなと、今は思っています。

ただ、さっき佐々木さんお二人からあった構成をしている方々の思いをどう拾うかってところが悩みますね。

ただ、今回、視察に行くところで1番とか取りにくいので、一番気になるのはNPOの若い人たちなどの組織としてやっているところの構成員の方々の思いは拾いたいのので、二段階であれば今言った団体の調査の聞き取り調査を中心としたものに整備をするのが基本。

構成メンバーの思いとかを拾うようなアンケート形式なものを二段階目として用意をしておいて、それが取れるようなところが見えてくるので、例えばさっきの公民館とか職員が少ないところは一人で終わってしまえるので、NPOさんとか取れるようなところに関してはそういう構成の方々の御意見を二段階目として取ることを考えていこうと思っています。ただ、二段階目のアンケートの中身については、ちょっと今この場で提示ができないので、これは原案つくったら皆さんに後で、後日、お送りして御意見をいただきたいと思えます。

(澁谷議長)

・はい、どうぞ。

(星山委員)

・今の伺っていて、あの、こんなふうにしたらどうでしょう。まずメインがやっぱり団体があるってことなので、この調査の中で「あなたは」っていうような回答者の属性を聞いてるんですね。

回答者の属性をさきに聞くと、調査の趣旨がわからなくなるので、これは全部後ろに回したほうがいいと思う。

例えば、団体名、書いてもらってもいいんだけど、いつから活動を始めたとか、活動の主な内容はどれなのかっていうのは選んでもらうとか、ということから始まっていて、そして、その活動が行政主導なのかどうなのかとか。

あるいは、取り組んで実際、成果はどうなのかっていう、活動をずっと聞いていく。後で回答者について、御回答いただいた方についてお伺いしますっていうふうなことにして、性別とかその年代とか関わった動機とかっていうふうなことをまず、回答者についてだけお聞きするっていうふうなことで今の利点案をまとめる。

今、委員がおっしゃったようなメンバー個々の関わり方とか意見を聞くってことであれば、それはまた別途、必要であれば、共通したアンケート調査をつくって送って回答していただくっていうふうな、今の段階では二段階でやるのが一番現実的なのかなっていうふうなふうにずっと思っていました。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

今の星山委員さんからの案ですが、下記に進んでいただきますと、個人と団体というふうなことでいろいろ議論してきたんですが、両方ともやはり大事であろうというふうなことから属性、あなたのというものについては後ろに回すというふうなことでどうかなど。

あと団体等について必要ならば調査をかける、という二段階の考えで進めたらどうかというふうな御意見を頂戴いたしました。

そちら方向でよろしいでしょうか。

(「はい」と言う声があり)

(澁谷議長)

・はい、それでは、また事務局のほうで日にちもないところで若干、御苦勞かけることでございますがよろしくお願いします。

(事務局)

・はい。

(澁谷議長)

・時間も押してきましたので、もう一つ資料の3、提示されておりますので、資料の3につきまして御意見を頂戴したいと思います。

これは社会教育、公民館等に関わる調査票というふうなことでございますが。この調査の予定はどうなっていますか。

(事務局)

- ・中身が整備できましたらすぐに8月中に発送をかける予定でいます。

(澁谷議長)

- ・そうですか。今、ごらんになって意見等を出していただきたいと。

(星山委員)

・さっきから私気になっていたのは、調査対象の施設なんですけど、公民館と類似施設に限定するっていうのはわかるんですけど、その但し書きのところ自治公民館って出てくるんですけど、これ、宮城県の場合、私、以前全部調べたことがあるんですけど、自治公民館という名前で類似施設の場合と、単なる集会所の場合とあるんです。もちろん所轄もいろいろですし、それから場合によっては集会所なのに公会堂という物すごい名前をつけるところからですね、いろんな形があるので、集会施設等は除くっていうのはわかるんですけど、自治公民館って名前入れちゃうと混乱するんじゃないかなってちょっと懸念があるんです。

類似施設の場合でもそういう名前を使っているところがあるので。

地区館も同じなんですよ。ちゃんと類似施設的な性格を持ってやっている地区館って呼ばれているところと、それからそうではない本当に単なる集会施設で地区館と呼んでいるところがあるのでね。非常に難しいなと思うんですけど。

(佐々木淳吾委員)

・問い2番の(3)番ですね、指定管理者の種別のところで、①から④ありますが、行政系の支援団体系、この二つは分けたほうがいいんじゃないのかな。

つまり、いわゆる、地域住民組織と市民活動団体等から発生したNPO法人だったり、一般社団法人であったり、やはり組織の原理違いますので、分けたほうがいいかなと。

あと、民間というところで意図されているのは、会社みたいなものなんですかね。民間とその支援団体とか、言葉の使い方がいろいろありますので、できればその辺は、別に複数に選択肢を数を増やすことは問題ないと思いますんで、分けておいたほうがいいんじゃないかと思います。

(事務局)

- ・はい。

(澁谷議長)

- ・はい、ありがとうございました。

生涯学習課としてこの指定管理等に関わるこういう形の調査をするのは、今回、初めて。

(事務局)

・いえ。公民館，公民館類似施設として登録されている施設は調査しております。ただ，そこに属さない施設が分からないので，今回，調査をしてみたいということです。

(澁谷議長)

・はい，わかりました。はい，どうぞ。

(佐々木とし子委員)

・印刷のあれなんですけれど，横書きの場合は，こっちからこう開くんじゃなかったかなと，縦の場合は，こっちからこう，なんとなく違和感あるんですけど。

(事務局)

・はい，すみません。製本は私の印刷のときの指令が上手く……。まだ，プリンタが上手くいかなくて，ですね，横開きの形で印刷しました。

実際には本のようにこう製本します。

(佐々木とし子委員)

・こうなるってことですよ。

(事務局)

・はい，先ほどの御指摘いただいたのを直しまして，実施させていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

(澁谷議長)

・今の御指摘があった2点，確認いたしません，事務局のほうで御検討いただいた上で進めていただければと思います。

なお，あとまだ実際に実施するまで時間があるようございますので，もし，気がかりになっていることとか，確認したい，あるいは直したらいいんじゃないかと思うようなところがあれば，事務局のほうに直接お問い合わせいただきたいと思います。

それでは，時間ちょっと過ぎてきました。報告に入ります。委員の皆様から報告はございませんか。

(杉山委員)

・はい，いろいろアンケートの中身とか取組の中身の中ですね，地元の，行政とか，いろいろNPOとかの中で，地元民なのか，県外から来た人なのかという問いかけがなかったようなんですけど，石巻あたりは，結構県外からたくさん来ていただいて，一生懸命やってもら

っているんですね。女川あたりは逆に地元の若い人たちが頑張ってまちを盛り上げているって、そういう違いがあつてちょっと石巻は地元民として不甲斐ないんですけど、よそから来た若い人たちに一生懸命盛り上げてもらって、それに引っ張られるような形で地元の間が後から着いて行っているようなところも多くてですね、そこら辺のよそから来て一生懸命やっている人の動機とかモチベーションとかですね、そういうところも聞いてみたいというのがあります。はい。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございました。鈴木委員さん。

(鈴木委員)

・はい、先ほどの資料3の公民館等の調査ですが、どうせ聞くのですから、問6番の(3)で震災に関連する事業というよりは、このテーマを踏まえて、例えば震災前と震災後の事業の様子とかですね、そういう何か事業形態の変化とかですね、そういうテーマに密接したものを聞いてみたりとか、実のあるものですし。また、世代を超えたというふうなところを踏まえて、例えば主な利用者の年代とか、あるいは多世代で実施している事業の有無とか、その中身とか、そういったものを聞いてみてもですね、テーマに関連したことを知る手立てになるのではないかなとそういうふうに思いました。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございました。星委員さん。

(星委員)

・アンケートする際に、現実的な行動した部分っていうところと、その個人が経験から得られたエピソードであるとか、思いであるとか、そういう部分をやはり分けて聞いていく必要があるのではないかなというふうに思いました。

実際に話を聞くときにですね、私たちが個人的に興味・関心を持ちながら聞いていくわけなんですけれども、最低、この部分は聞いていきましょうというようなベースをあらかじめ事務局のほうに立てていただきながら、ことごとにインタビューしていければなというふうに思いました。以上です。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。

委員の皆様方、これだけはぜひこの場で言っておきたいということ、もしありましたらどうぞ。よろしいですか。すみません、なかなか司会の不手際で時間押してしまいました。

それでは報告に入らせていただきます。委員の皆様からの報告はございますでしょうか。

それでは、私のほうから1点、御報告させていただきます。

県の社会教育委員連絡協議会のこの場の代表を仰せつかっておりますので、その件につきまして口頭で御報告させていただきます。

6月9日に県庁のほうで代議委員会がございました。その中で、研修会も含めまして、この社会教育専門監から御講話をいただいたところでもございました。大体、事業についての報告・決算ということですが、会長は栗原の菅原敏元さん等、役員の改正。一番のメインは、今年の10月30、31に第39回全国公民館研究集会と合わせて東北地区社会教育研究大会と三つですね、東北地区の公民館大会宮城大会が合同で行われるというふうなことでその件についてのお話もございました。

場所は、国際センターでございます。そして大会の資料代が3,000円ということで、ぜひ多くの方々に参加をしていただきたいというふうなことでお話もございました。なんか、予算面で大変苦勞されているというふうなことで、協賛金を集めるとか話が出ましたが、基本は多くの皆様に参加いただきたいというふうなことで私のほうからもお願い申し上げたいというふうに思います。よろしくお願いたします。

議員の皆様からたくさん御意見を頂戴いたしまして、充実した話し合いとなりました。

以上で、議事を終了いたします。時間90分オーバーしてしまったことを平にお許しいただきたいというふうに思います。

(司会)

・議長様、ありがとうございます。議事お疲れさまでございました。

それでは連絡に入ります。

まず、次回の開催について御連絡いたします。次回は、11月中旬から下旬に開催したいと考えております。実地調査の終わる9月末ごろ、皆様と日程調整をさせていただきながら決定していきたいと思っております。場所は、行政庁舎会議室あるいは、自治会館を予定しております。また、第6回目の会議記録をホームページで公開しておりますのでごらんください。

事務局から何か連絡ございますか。

(事務局)

・はい、1点、御連絡申し上げます。

美術館では8月12日土曜日よりルオーのまなざし表現への情熱展を開催いたします。公開初日には、ルオーのお孫さんがおいでになりまして、来日されて講演もなさいます。ぜひ、足を運んで御鑑賞いただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

(司会)

・以上を持ちまして第34次(第7回)宮城県社会教育委員の会議を終了いたします。